

藤波こども園

園長だより

No. 67

令和3年2月25日
文責 竹原 篤



旧 藤波幼稚園 現 藤波こども園

節分の取り組み

2月にはいるとすぐに節分があります。「鬼は外～ 福は内～」のかけ声があちらこちらから聞こえます。「節分」は「立春」の前の日のことを言います。今年の節分は例年より1日早く1897年以来124年ぶりに2月2日になりました。節分の豆まきは、悪い鬼を追いはらって福を招き入れます。そして、すがすがしい気持ちで立春を迎えるためのものです。「鬼は外～ 福は内～」と豆をまく節分の行事は、昔の人たちにとっては、冬の「陰」を追い出して「陽」に変えて春を招く大事な行事だったそうです。

今年度はコロナ対策のため、全体での集会活動ではなく、ホームやクラスごとに取り組み、鬼さんたちがまわってくれました。こども園での豆まきの時に枝先生からお話を聞きました。【鬼を追い払う二つの魔除け】一つ目は焼いた鰯の頭を柵の枝に刺して家の入口に飾る。鬼は臭いものが苦手な「鰯を焼いたときの臭いは鬼を寄せ付けない」と信じられていました。二つ目は柵を飾っておけば節分に鬼が家のなかを覗きに来てギザギザの葉が鬼の目をついて追い払うと考えられていました。節分の豆は「自分の歳よりも1個多く食べるように」と聞いていますが、昔は立春に1つ歳をとると考えられていたからだそうです。美味しく豆をいただいて、子どもたちの1年の健康(マメに生きる)と幸せをお祈りしています。



雪遊びの様子



今年度は雪の日が多く、子どもたちは雪の中で自分のしたいことを友だちと仲良く楽しむことができました。園庭に可愛い「雪だるま」がたくさん作られましたが、近くの田んぼにも雪組の子どもたちがいろいろな想いを込めて作ってくれました。この「雪だるま」は、まわりの雪が解けだしても力強くこども園を見守るかのようにど～んといってくれました。

笑顔で待つ心の大切さ

親と先生の『笑顔』『温かく待つ心』が子どもを安心させ、伸び伸びと育つと考えられます。人の「笑顔」は、相手を受け入れていることの何よりのメッセージとなると思います。子どもはことのほか笑顔が大好きで、また笑顔が似合います。また、「温かく待つ心」を持っている人は、ゆとりがあり相手のよいところに目がいきます。冷たくて持てない人は、常にイライラし相手のよくないところに目がいきがちです。どちらが子どもにとって教育的かは言うまでもありません。

この「笑顔」と「待つ心」は、その人の持って生まれた性格で片付けるのではなく、親や先生になれば、誰もがどうしても身につけなければならないことだと思います。親や先生の笑顔は子どもの気持ちを伸び伸びと安心させる力があります。そして、笑顔は「少しぐらい失敗してもいいよ」という気持ちも伝えるため、子どもを何事にも主体的・積極的に取り組みたいという気持ちにさせてくれます。親や教師が笑顔で迎えれば子どもは必ず笑顔になってくれます。そのうちにどの子も誰とでも笑顔で接するようになります。

温かい人というのは、相手のために自分の時間を使っても惜しいとは思わない人で「待つことができる人」だと思います。

子どものやる気を引き出し、伸び伸び育てるには、今以上に私も含め親も先生も「笑顔いっぱい」「温かく待てる人」になりたいと思います。

ホーム交流

来年度、花組に進級する子どもたちが「ぱんだ・きりん・ぞうホーム」で交流活動をしました。日頃とは違うお部屋で初めてのおもちゃやままごと等を使って楽しく過ごしていました。各ホームではお兄ちゃんやお姉ちゃんが雪組のお友だちに優しく関わってくれました。

このようにホーム交流を重ねて、ひとつ大きくなってホームでの「たてわり活動」の楽しさをたくさん感じてくれると思います。



🌸ありがとうございます🌸

【いただきました】

ほうれん草	青柳区	保護者様
手作りマスク	四津川	山本様
綺麗な布	西万木区	保護者様
パズル	青柳区	保護者様

